

ごあいさつ

三重県立美術館では、所蔵作品による2005年度移動美術館を開催することになりました。移動美術館は、各地域の文化活動に寄与する目的をもった三重県立美術館の最も重要な活動のひとつとして毎年開催されています。三重県立美術館に頻りに訪れることが困難な地域の方々には、美術館のコレクションを身近に鑑賞できる機会として、好評を頂いています。

今年度の移動美術館は「旅するまなざし 未知なるものを探して」をテーマにおよそ30点の作品を選定いたしました。普段慣れ親しんだ場所を離れ、未知な景色や文化に触れることは、芸術家たちにとって大いに刺激となり、あらたな作品創造のインスピレーションの源泉となってきました。今回の展覧会では、浅井忠、藤島武二といった日本の近代の画家から、シャガール、ミロのような海外の作家や、さらには佐藤忠良の彫刻に至るまで、幅広いジャンルの芸術をお楽しみ頂けます。

最後に2005年度「移動美術館」展開催にあたり、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

旅するまなざし

「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」。人生を旅にたとえた芭蕉の言葉に、多くの人は深い共感を寄せることでしょうか。私たちは変わり映えのしない日常を生きながらも、同じ日を二度生きられぬ運命を背負い、それぞれの道を歩むことしかできません。別の言い方をすれば、そのような遠く長い道のりの途中にある私たちにとって、旅とはまさに人生の縮図ともいえるでしょう。

古来より多くの芸術家たちは自ら進んで見知らぬ土地へと発ちました。そこで目にする景色や人々、様々な文化や風物などは、彼らにとって、新鮮な驚きに満ちていました。時には創作活動に対して新たなアプローチを提供してくれることもあったでしょう。また同時に、未知なるものへの眼差しは、鏡のように自らへと折り返され、いままで当たり前のように思っていた自分の世界への新たな視点を提供してくれるはずです。

この展覧会をきっかけに、旅と芸術家の関係について思いをはせて頂けたらと願っています。